希望の子

小林市立南小学校　　校長通信
令和３年５月１７日　　第15号　（文責　校長　吉井秀一）
TEL: (0984) 23-3520　E-mail:1403eb@miyazaki-c.ed.jp

５月９日に宮崎県独自の緊急事態宣言が発令されました。感染者数50名程度の日が数日間続き、一月よりも積み上がる速度が速いことに驚きます。医療関係者の皆さんが命を救う最前線でコロナと戦っておられることを思うと、私など何も力はありませんが、「ここで止めたい。」という気持ちが強くわき上がります。今は、この気持ちをみんなで共有し、みんなで実行するときなのでしょう。長い戦いの間に、外の力に頼っているだけでは何も変わらないことも学んできました。とにかく有効とされる対策を個人が確実に実行していくしかありません。

感染すれば家族とも離れることになる・・子どもたちにも今一度、感染の怖さを伝えようと思います。子どもの健康と安全のために一緒にがんばりましょう。

シンプルに考える

「人生は選択の連続だ。」とのフレーズを最近テレビで耳にしました。改めてググってみると、どうやらシェイクスピアの言葉らしいですね。

コロナ禍で様々な対応を迫られている今の学校は、まさに選択の連続です。教育の目的と子どもの安全、国や県の方針、予想される結果などを踏まえていくつかの選択肢がそろうと、いよいよ判断を迫られます。「子どもの安全」が最優先であることは確かですが、それだけを優先させればとっくに学校での教育はストップされているでしょう。30年以上教員をやっている私でも、改めて「学びを止めない」ことの重要性を思い知らされることになりました。毎日成長し続ける子どもたちに「今、学ぶべきこと」を確実に伝えることが、長い間に築き上げられた学校の重要な役割なのです。

さて、選択・判断をする上で私が大切にしているのは、「シンプルに考える」ことです。言い換えれば「ふつうに考える」こと。「もし、○○になったら」とか「○○がだめなときは・・。」など、あらゆる場面を想定することは大切ですが、すればするほど結論は出なくなります。

物事の決定には「子どもたちにとって大切な今」を逃さないスピード感も求められますので、時に「妥協」も伴います。「妥協」は、よくないイメージで使われることもありますが、ここでの「妥協」は、あらゆる選択肢や可能性を踏まえた上での最もベターな選択ということです。そのためには、あらゆるハプニングを頭に描きながらも、「ふつう」を選択、つまり「王道をゆく」ことを大切にしたいと考えています。

なぜ、この考えに至ったのか自己分析してみると、昔、野球のスポーツ少年団を指導していたときの経験でしょうか・・。監督として数々の失敗を経験する中で、一番大切なのは、「正面に来たボールを確実にさばく」プレーだという結論に至ったのです。ヒットコースに飛んだ打球を飛び込んでアウトにするプレーは華やかで、拍手喝采ですが、逆に正面の捕球に失敗した時のショックの方がよっぽど大きいのです。そのことに気付いてから私は、練習では正面へのノックを繰り返し行うようになりました。

当たり前にみえる活動も、あらゆる選択肢と想定の中で「子どもたちのためになる」と判断して選択しています。

「子どもたちのため」こそ学校の「王道」だと考えます。まだまだ制約がかかる状況は続きますが、今後も道の真ん中を探りながら進みます・・。

オリンピック集会　お礼　保護者の皆さんの御理解も有り、無事に開催できました。福留先生もコロナへの対応にずいぶん気をつかっていただいたのですが、子どもたちのためにと出席してくださり、連休明けにはお手紙も届けてくださいました。ありがとうございました。

オリンピック集会に参加いただき、小林市の聖火リレーでもアンカーを務められた福留先生が、その日の気持ちを詩にこめて、学校に届けていただきました。これとは別に、子どもたちへの長文のお手紙もいただいています。児童玄関に展示しておりますので、学校に来られた際はぜひ覧ください。